

広尾館だより

冬号 (Vol.44: 2026年1月発行)

新しい年がスタートしました。この時期は、定期試験や実習準備、論文審査、国家試験などに向けて頑張られている皆さんも多いのではないでしょうか。図書館で集中して勉強をしたり、気分転換に興味のある本を読んでみたり…。ぜひ図書館に足を運んで自分の時間を過ごしてみてはいかがでしょうか。

冬の読書案内

『ワーニャ伯父さん 四幕からなる田舎暮らしの情景』 チエーホフ 著 安達紀子 翻訳 (群像社)

登録番号0110269 請求記号982/C 学生選書コーナー

お客様あ、この冬“特別な一冊”を読みたくないですかあ～（ねっとり）？
そこで今回ご紹介するのがコチラ！ロ・シ・ア・文・学！！！

「ロシア文学？本は長いし、名前覚えられないし、暗いし、読みたくない！」
——ラスコリニコフだのスタヴローギンだの名前は長いし、読み進めると急に絶望したり発狂したり。そんなロシア文学の“怖いところ”を取り払った夢の一冊が……
チエーホフ『ワーニャ伯父さん』です！！（謎キラキラカットイン）



（急なVTR、聞いたこともない専門家風の男が語りだす）
ロシア文学と言うだけで避けられがちです。ですが、この翻訳は戯曲の息遣いを感じられて、“読みづらいロシア文学”とは一線を画します。『ワーニャ伯父さん』は登場人物の名前はみんな短めです。雰囲気は暗いですが、どこかコミカルさのある陰鬱さで、読んでいてクッとしてしまう瞬間ばかり。そしてもっともオススメポイントは、小気味良い日常のあるあるでしょう。なんとも言えない生きづらさや、閉塞感や通じなさ。仲のいい相手でも話は通じてなかったり。御高説を聞かされて鼻白んだり。昔の夢を思い出したり。好きな人にはもう相手がいたり。それらが鬱屈して、たまには爆発してみたくなったり。ドラマチックじゃないのに、なぜか沁みる。そんな優しさがワーニャ伯父さんにはあります。

（VTR終わり。電話番号大きくアップ、右上にオペレーター室の様子）
ロシア文学、いや読書初心者にもぴったりのチエーホフ『ワーニャ伯父さん』！今なら特別にドストエフスキイ『未成年』もお付けいたします（在庫処分）。フリーダイヤル“ワーニャ伯父さん”まで！
今年の冬は、チエーホフで差をつけろ！！！
(TBCメンバー看護学研究科修士1年M・S)

学生選書ツアー を開催しました。

2025年11月28日、新宿の紀伊国屋書店にて、選書ツアーが開催されました。有志の学生が実際に書店に足を運んで、看護領域だけではなく、さまざまジャンルの本を選びました。希望のTBCメンバーはWeb選書にも参加して、そちらと合わせて140冊の本が学生選書コーナーに並ぶ予定です。選書ツアーは来春にも開催しますので、みなさん、ぜひご参加ください！



		月~金	8:50 - 21:00									
		土	10:00 - 17:30									
		*土曜日は本学在籍者限定 *幹部看護師研修センター研修生は土曜のみ利用可										
通常開館		8:50 - 14:00										
短縮開館		8:50 - 17:00										
休暇中開館		1月										
閉館		日	月	火	水	木	金					
		4	5	6	7	8	9					
		11	12	13	14	15	16					
		18	19	20	21	22	23					
		25	26	27	28	29	30					
2月		3	10	17	24	31						
		1	2	3	4	5	6					
		8	9	10	11	12	13					
		15	16	17	18	19	20					
		22	23	24	25	26	27					
3月		28										
		1	2	3	4	5	6					
		8	9	10	11	12	13					
		15	16	17	18	19	20					
		22	23	24	25	26	27					
		29	30	31								



2025年(1月~12月)学生選書コーナー

年間貸出ランキング



毎年恒例の年間貸出ランキング！今年も人気の高い学生選書コーナーから上位のものを発表いたします。ランキングに載っていない本でも人気の作品が多数ありますので是非学生選書コーナーをご覧ください！



『成瀬は天下を取りにいく』

宮島 未奈 (新潮社)

‘24本屋大賞受賞作品。成瀬という変わった少女を取り巻く日常を描いていた作品。

『20代で得た知見』

F (KADOKAWA)

SNSで話題を呼んだ等身大の言葉が並ぶ、人生の指針となるエッセイ集。

『11の間取図 変な家2』

雨穴 (飛鳥新社)

フィクションをノンフィクション風につづる手法のホラーミステリー。

『カフネ』

阿部 晓子 (講談社)

‘25本屋大賞受賞作品、死んだ弟の元恋人と家事代行サービス『カフネ』に携わる。

お気に入りの一冊

川崎修一先生のおすすめ
男は火星人女は金星人
改題：ベスト・パートナーになるために
ジョン・グレイ
登録番号0105446
請求記号141.6/G

恋愛や人間関係で「なんでわかり合えないんだろう」と思ったことがある人にぴったりな一冊。男と女の考え方や感じ方のちがいを、ユーモアたっぷりに教えてくれています。世界各国で翻訳され、「世界の2200万人が読んでいる」といわれる超絶大ベストセラー。

英語で読むと微妙なニュアンスや著者の本音がダイレクトに伝わるので、読む楽しみが倍増すること請け合い。ぜひ英語版にチャレンジしてみてください！

(※図書館には『ベスト・パートナーになるために』のタイトルで所蔵しています。)

遠藤花子先生のおすすめ
フランケンシュタイン
メアリー・シェリー 登録番号0109821
請求記号933/S

みなさんは『フランケンシュタイン』と聞いて、どんな物語を思い浮かべますか？怪物が登場するホラー小説でしょうか？

この作品は、1818年にメアリー・シェリーによって書かれた、フランケンシュタインという名前の科学者と「怪物」の物語です。人間の孤独や理解されることの難しさなど、「自分とは何者か」「他人とどう向き合えばいいのか」といった、今の私たちにも通じる深いテーマが描かれています。また、19世紀初頭の作品でありながら、人造人間を創造するという倫理について問い合わせてきます。少し難しそうに感じるかもしれません、新しい視点で自分や世界を見つめなおすきっかけになるかもしれません。ぜひ、一度手に取ってみてください。